

日本超音波検査学会 第21回研究発表会プログラム

会 期 平成8年4月27日(土) 12:00~17:30
平成8年4月28日(日) 9:30~16:00

会 場 ‘あいれふ’ ホール
(福岡市健康づくりセンター ‘あいれふ’ 10F)

〒810 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1

TEL 092 (751) 7778

研究発表会長 山崎 幸司

事務局 九州大学医学部附属病院 超音波室

〒812-82 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL 092 (641) 1151

FAX 092 (633) 2874

ご 挨拶

第21回研究発表会
会長 山 崎 幸 司

本会は発足20周年を迎えるに至ったこと、会員数も4,000人を越えようとしていること等を契機に、長年親しんできた日本超音波医学検査研究会の名称を日本超音波検査学会に改め、新たな出発を期しています。

その名称変更後初めての開催となります第21回研究発表会をお引き受けさせて頂く事は私にとって身に余る光栄でありますとともに重責を感じています。

今回の研究発表会の企画にあたり、諸先輩方の足跡を継承しつつ、かつ第21回研究発表会は20と1回目と言う気持ちを込めた新たな試みも織り交ぜ、さらには21世紀を目前にひかえていることも念頭におき計画致しました。

メインテーマの「21世紀の礎」―技師がおこなう超音波検査とは―は、シンポジウム・特別・教育講演の中で基本的事項を再認識すると同時に、今後の検査に必要な最新情報の話題とし、超音波検査に携わる技師はどの様に有るべきかを技術面のみならず精神面においても問いかけて行きたいと考えています。

また今回、一般演題の質的向上を目指すため募集方法にいくつかの規制を設けましたし、地方開催による不利な条件等も重なり、応募数はあまり期待出来ないのではないかと覚悟していましたが、プログラム作成に苦慮するほど予想に反して多数の応募があり、嬉しい悲鳴となりました。そのため従来に比し発表時間を多少短縮しなければならなくなりましたが、質疑応答の時間は従来通りとしました。

研究発表会は、本来新たな試みを速報的に発表する場であるため内容が完璧であることよりは活発な討論が行われることに意義があり、その結果修正すべきところは修正すればよいと考えます。むしろそのように注目された演題に対しては、各セッションの座長から推薦を頂いた上、論文として雑誌への投稿を発表会終了後に依頼しようと考えています。

その他には、会初日の夕刻に会員相互の親睦を図る目的で懇親会も新たに企画致しました。多数のご出席をお願いします。

開催時期の福岡では日中は汗ばむほどの陽気の頃であります。また、会翌日は休日と言うこともあり観光を兼ねてご来福頂ければと思います。

会場は、保健所等が入居する福岡市所有の多機能ビルで、その10階のコンサートホールを使用します。収容人員は最大300名ですが、予備として同階に200名収容の講堂を用意し、主会場の映像と音声を送致致します。

会場へは福岡空港・博多駅からともに地下鉄を利用して頂きますと、赤坂駅下車後海側に徒歩5分の地です。

皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

第21回研究発表会日程

4月27日

時 間	演 題 名	演 者	座 長
12:00	開 会 の 辞		
12:10~12:50	一般演題Ⅰ 21-1 水中多段階運動負荷心エコー図 21-2 大動脈弁に有意病変が認められない大動脈弁閉鎖不全の発生機序に関する検討 21-3 心エコー図法による左室一回拍出量計測に関する検討：ドブラ法とMモード法の比較 21-4 高血圧心における超音波組織性状とブドウ糖代謝との比較 (FDG-PET を用いて) 21-5 頸動脈波形を用いた大動脈弁狭窄症重症度の評価	真崎 玲子 竹内 伸子 種村 正 徳島 修 岩戸 秀信	重田 裕司
12:50~13:22	一般演題Ⅱ 21-6 人間ドックにおける頸動脈超音波検査 —カラードブラの有用性— 21-7 超音波検査法による内胸動脈グラフト適性の評価 21-8 頸動脈超音波パルスドブラ法における再現性の検討 —検者間の測定誤差範囲に関して— 21-9 下肢動脈における血行動態：超音波ドブラ法による観察	川地 俊明 戸出 浩之 寺島 茂 谷内 亮水	土居 忠文
13:22~14:10	一般演題Ⅲ 21-10 特異な超音波像を呈した乳腺の嚢胞性病変3例 21-11 高解像度超音波装置による乳房腫瘍超音波所見 21-12 乳腺分泌癌の4例 21-13 乳腺腫瘍の良悪性鑑別における超音波パワードブラ法の有用性 21-14 転移性リンパ節の超音波診断 21-15 類表皮嚢胞における超音波像の検討	宗 栄治 高橋 絹枝 若杉美智子 安藤美穂子 阿部 弥生 高梨 昇	来住野 修
14:10~15:10	教育講演Ⅰ 『甲状腺の臨床と超音波の貢献』 岡村 建	司会	山崎 幸司
15:10~16:10	教育講演Ⅱ 『心エコー法の最新アメリカ情報』 吉田 清	司会	永江 学
16:10~17:10	教育講演Ⅲ 『最近の超音波装置をとりまく話題について』 八木 晋一	司会	遠田 栄一
18:00~20:00	懇 親 会 会場：大手門会館		

4月28日午前

時 間	演 題 名	演 者	座 長
9:30~10:18	<p>一般演題Ⅳ</p> <p>21-16 超音波検査法による慢性肝疾患の長期経過観察 —CLD-scoreを用いて—</p> <p>21-17 癆痕肝における腹腔鏡所見と超音波所見の対比 (第一報) —腹腔鏡的に広範囲表層性癆痕を認め た6例における超音波所見の検討—</p> <p>21-18 アニュラアレイプローブによる肝表面観察の有用 性</p> <p>21-19 超音波パルスドプラ法を用いた肝硬変症における 門脈血行動態と肝線維化マーカーの比較</p> <p>21-20 肝内, 肝門部胆管癌の超音波像</p> <p>21-21 超音波像による胆石の傾向分析</p>	<p>藤田 光広</p> <p>田中 宏治</p> <p>南里 和秀</p> <p>椿 哲弥</p> <p>増田 裕美</p> <p>中川 英樹</p>	西田 睦
10:18~10:50	<p>一般演題Ⅴ</p> <p>21-22 嚢胞腎の検討</p> <p>21-23 無症状の腎盂腫瘍の超音波像</p> <p>21-24 副腎における腺腫及び転移性腫瘍の超音波像</p> <p>21-25 特異なEcho像を呈した原発性陰嚢内硬化性脂肪 肉芽腫の3例</p>	<p>高橋 明子</p> <p>八島 香代</p> <p>上條 敏夫</p> <p>山崎 良兼</p>	三浦 融
10:50~11:22	<p>一般演題Ⅵ</p> <p>21-26 小児胃十二指腸重複症の超音波診断</p> <p>21-27 皮下脂肪厚および腎臓後面脂肪厚測定の有用性に 付いての検討</p> <p>21-28 本院における健診超音波検査について</p> <p>21-29 普及型パーソナルコンピューターを用いた移動ス テーション超音波ファイリングシステムの使用経 験</p>	<p>宇治橋善勝</p> <p>福田 守人</p> <p>永江 学</p> <p>有吉 英次</p>	鳴村 賢司
11:22~12:30	休 憩 (評議委員会)		

4月28日午後

時 間	演 題 名	演 者	座 長
12:30~12:50	総 会		
12:50~13:00	次回研究発表会長挨拶 諸井 中		
13:00~14:00	特別講演 【超音波検査士制度のあゆみと将来の展望】 平田 経雄	司会	増田 喜一
14:00~16:00	シンポジウム 【超音波検査のスクリーニングと精査のあり方；領域別の検討】 21-S1 超音波検査のスクリーニングと精査のあり方；消化器（肝臓） 21-S2 超音波検査のスクリーニングと精査のあり方；循環器領域における検討 21-S3 甲状腺超音波スクリーニングと精査における技師の役割 21-S4 泌尿器科領域におけるスクリーニングと精査のあり方；腎・前立腺について 21-S5 超音波検査のスクリーニングと精査のあり方；卵巣・子宮 21-S6 表在血管（頸動脈）超音波によるスクリーニングと精密検査 21-S7 整形外科領域（肩関節）における超音波検査のスクリーニングと精査のあり方	鶴岡 尚志 水上 尚子 山崎 昌典 倉光 敏之 藤原 雅之 佐藤 洋 白石 周一	諸井 中 小郷美紀生
16:10	閉 会 の 辞		